

令和 2 年 7 月 13 日現在

機関番号：83503

研究種目：若手研究(B)

研究期間：2016～2019

課題番号：16K21706

研究課題名（和文）博物館が所蔵する写真の資料化と当該地域の民俗及び生活変化に関する写真民俗誌的考察

研究課題名（英文）A Photography Japanese Ethnography Study on the Documentation of Photographs in the Museum and The Changes in Folklore and Life in Yamanashi

研究代表者

丸尾 依子 (Maruo, Yoriko)

山梨県立博物館・山梨県立博物館・学芸員

研究者番号：10574155

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 3,100,000円

研究成果の概要（和文）：山梨県立博物館が所蔵する昭和時代の山梨県内各地の写真資料群についてデジタル化を進め、撮影内容の確認と分析と分類を行った。写真が最も豊富な昭和30～40年代は、山梨県内においては養蚕業から果樹産業への転換や、都市部の開発、それにともなう民俗の変容が急速に進んだ時期である。この時期を含む各写真の撮影地の確認と撮影内容の分析により、写真の資料化を進めた。これにより、山梨県内における生産作物の変遷や、動物利用、土地利用の変化、住生活の変化などを視覚的に示す資料としての活用が可能となった。

なお、デジタル化した画像と分析情報は、小学校中学年の社会科「昔の暮らし」の単元における教材としての活用を試みた。

研究成果の学術的意義や社会的意義

対象とした写真群の撮影内容を分析することにより、本資料群が激変期の社会を視覚的に記録し、かつ山梨県における生活の推移を視覚的に示す資料であることが再確認できた。また、写真はある事象を説明する際の補助的な資料として使用されることが多いが、被写事象の抽出や、同時代、同時例、同地域などの条件のもとに複数の写真との比較を行うことで写真を資料化し、地域誌を示す素材としての活用が可能となった。写真のデジタル化はネガフィルムの劣化に対応するとともに、被写情報の活用促進をはかるための措置である。本研究でも、博物館活動や学校教育における活用が容易となった。

研究成果の概要（英文）：The photograph materials of the Showa period held by the Yamanashi Prefectural Museum were digitized and confirmed/analyzed. Most of the pictures were from 1955 to 1974. At that time, in Yamanashi prefecture, the transition from sericulture to fruit tree industry, the development of urban areas, and the accompanying changes in lifestyle were rapidly advancing. By confirming the shooting location of each photo and analyzing the shooting contents, we were able to visually understand the crops, land use, lifestyle, folk changes, etc. in Yamanashi Prefecture. It can also be used as a museum material to show changes. The digitized images and analysis information were used as teaching materials for the social studies "Old Life" in the middle grades of elementary school.

研究分野：民俗学

キーワード：写真の読み解き 画像資料の活用 博物館における写真の資料化

様式 C - 19、F - 19 - 1、Z - 19 (共通)

1. 研究開始当初の背景

写真は生活・文化・社会状況・風土等様々な要素を内包しており、当時の各地域の様子や民俗等を読み取ることが可能であることから、民俗学においては資料としての画像の有用性が認められてきた。また、神奈川大学 21 世紀 COE プログラムや國學院大學学術フロンティア事業などの諸研究を経て、写真は補助的な位置づけに留まらず、それ自体が資料と見なされつつある。しかし、写真の「資料化」には読み解きや分析の作業が不可欠であり、資料化や分析の方法論が未だ確立されきっていないという課題もある。

博物館においても、近年多くの写真展示が実施され、写真の重要性と資料価値の高さは認識されているが、その位置づけは実物資料とは異なり、間接的資料として必ずしも高位には置かれていない。従来の民俗展示でも、実物と写真は主・従の関係であり、写真は補助的な使用が一般的であった。しかし、情報を読み解き、その多くを観覧者に提供するならば、写真は決して補助的資料に留まるものではない。資料化によって写真の持つ資料性を十分に活かすとともに、資料としての位置づけを向上させ、展示と活用についての議論を活性化させる必要がある。

2. 研究の目的

本研究に用いた写真群は、主として山梨県内の農村地域において、農業改良普及員である撮影者が勤務の傍ら撮影したものであり、山梨県博が所蔵している。撮影年代は昭和 25 年(1950)以降平成初期(1990 年代後半)までであり、約 3000 本のネガフィルム・紙焼き写真・「撮影メモ」・ベタ焼きから構成される。ほとんどのネガフィルムに番号が振られ、「撮影メモ」により撮影年月日や撮影地が特定できる写真も多い。インデックスとしてのベタ焼きも作成されている。

本研究は上記写真群に対し、次の 3 点を主目的として行った。写真をデジタル化し、被写情報を抽出・分析して資料化をはかる。により得られた情報から、撮影傾向と山梨の農村地域の民俗を含む生活変化について考察する。により得られた成果を、博物館の展示や教育普及活動において利用促進をはかる。

3. 研究の方法

(1). 資料化する写真の選定

当初は、資料群の全てのネガフィルムの全てに目を通し、デジタル化と分析を行うことを目標に進めていたが、期間内の作業完了が不可能であると判断したため、対象写真を紙焼き写真を中心とすることに変更した。撮影者により紙焼きされた写真を中心としてデジタル化と分析を行い、必要に応じて元のネガフィルムに遡り、前後関係等を確認することで作業の効率化をはかった。

紙焼き写真自体は、撮影者が撮影したネガフィルムの中から選別して焼き付けたもので、一部の写真は撮影者の研究発表や、写真集の編集に用いたと思われる。また、連写写真からは 1 枚を厳選していることも多く、意図をもって選択されている。撮影意図を解するうえでも、紙焼き写真を中心とした分析を行うことに問題はないと判断した。紙焼き写真は、11 テーマに分けてアルバム収納されたもの(表 1)と、3 つの木箱に保管されたものがあつた。資料化の過程において、アルバムと木箱内の写真の一部に重複があることも判明した。

(2). 写真のデジタル化

紙焼き写真と、ネガフィルムの一部をデジタル化した。1200dpi を基本としてスキャンし、活用時の利便性を考慮して jpg で保存した。画像の名称には、箱番号やファイル名、ネガナンバーを用いた。

(3). 被写事象のキーワード化と分析(資料化)

スキャンした写真の被写事象を文字化して抽出(キーワード化)した。この際、紙焼き写真に記載された撮影者のメモに基づき、撮影年代や場所を確認した。また、メモが無い写真については、ベタ焼きファイル・ネガフィルムに遡ったうえで「撮影メモ」との照合を試みた。撮影地が判明した写真のうち、さらに具体的な撮影ポイントが判明する可能性のある写真については、可能な範囲で現地確認や聞き書き調査も実施した。

聞き書き調査では、写されている地域での生活経験がある方を対象に、写真を見ながら場所、撮影角度、場面、建物、その他の写り込んでいる事物についての確認や、同時代の話者の経験について聞いた。また、既存の博物館の調査記録のうち、撮影地や撮影内容に関するデータについては補足情報として紐付けした。最終的に上記(1)~(3)までの一連の作業を実施し得た写真点数は、市町村別の点数とともに表 2 に合計として記載した。

(4). 写真の教材化

(3)の作業を基に、写真を使用した学校用教材を整えた。

4. 研究成果

(1). 写真の資料化の手法とその課題

写真のデジタル化を実施したことにより、フィルムや紙焼き写真の劣化に対応するとともに、博物館活動や学校教育における活用が容易となった。

写真の資料化の過程では、写し込まれた内容を詳細に正しく把握することや、撮影者の意図を汲み取ることが必要である。そのためには、画像を丹念に読み解くのみならず、必要に応じて現地確認や聞き書き調査を行い、被写事象を理解するための情報収集も行わねばならない。

また、それらを言語化し、資料情報として記録することも必要である。この方法は、写真の資料化の唯一の手法として既に提唱されてきた。本研究でも同過程により写真の資料化を行い、上記のような手法が有効であることが確認できた。情報量が膨大な写真資料は、写し込まれた状況が理解され、情報として整理されてこそ文章の補助的役割から抜け出し、それ自体にも資料的な価値が付与される。

ところが、この方法は、資料の計測や作図等の過程を除けば、実物資料を資料化する過程とほぼ同じであり、要する時間は膨大である。ましてや、博物館が所蔵する写真資料、そして今後収集されるだろう写真資料の量は、実物資料とは比較にならないほど多い。資料としての写真の活用価値を思えば、資料化の手順の効率化と設備・体制の整備が大きな課題である。

(2) .写真の内容について

写真群の撮影傾向と特徴的な内容について、主として昭和 30 年代から 40 年代(1955～1974)頃に撮影された写真を対象に、分析の結果に基づき概要を述べる。

・撮影傾向

資料化した写真の撮影年代は、昭和 25 年(1950)から平成 7 年(1995)までであった。最も枚数が多いのは昭和 30 年代から 40 年代(1955～1974)頃であり、撮影者が農業改良普及員として農村部を訪れていた時期と重なる。また、撮影テーマは農村生活の記録が大半を占める。撮影者自身は「写真の記録性を大事に」「過去を記録して認知するには写真が最良だと思う」と述べており、山梨県において農村部の生活が著しく変化した時期に、その記録に主眼を置いて撮影していたことがわかる。

撮影内容は、農作業の様子は無論、生活改善運動やインフラ整備もふんだんに記録されている。また、共同井戸や川の水汲み、上水道整備と台所の改築、水路のコンクリート化等、水にまつわる写真も散見される。その他、人生儀礼、祭り・行事、災害やトンネル開通等の社会的出来事がみられる。職場旅行や出張時の県外風景、家族写真も存在する。

地域によって撮影枚数には偏りが生じている。市町村別の写真数は表 2 に記載した。甲府市が圧倒的に多く、次いで北巨摩地域(特に旧長坂町)が豊富である。甲府は撮影者が居住していたことにより、北巨摩地域は、業務での訪問回数や旧長坂町の出身であることが影響していると考えられる。なお、撮影地未詳の写真には、農村生活風景以外にも植物写真や調査・作業用の手控え、発表用パネルが含まれている。これらは今後の調査対象からは除外するが、残る写真についてはネガフィルムとの照合を進め、撮影地の特定に努める。

・人と動物との関係性

撮影者は麻布獣医学校(現麻布大学獣医学部)で学び、動物が好きで関心も高かった。写真群にも、馬や牛、山羊、豚などの家畜の写真が多く見られる。

撮影時期は、農作業において畜力利用から機械化が進んだ。本写真群でも農作業中の風景に家畜が写り込むことに不思議はない。とはいえ、農作業以外にも飼育小屋での様子や給餌、装蹄、散歩、野良帰りの人と動物の交流、子どもと家畜との触れ合い等、動力としての家畜のみならず、生物としての興味や、愛玩の対象としてのまなざしが感じられる写真が多く見られるのも事実である。畜力講習会や畜力利用競技会も比較的多く撮影されたテーマであり、人と動物との協同性にも撮影者の関心が向けられていたことがうかがえる。さらに、農耕馬を引退して観光乗馬に役割を変えた馬、祭りの露店で売られるウサギ、移動動物園の猛獣等、娯楽のための動物も撮影されている。動物が家畜として不可欠であった時代を経て、人と動物との関係性が移り変わる様子を記録する意図があったと推測される。

ところで、昭和 40 年代(1965～1974)前後の山梨県内では養蚕業が盛んに行われていた。写真群には養蚕農家の作業風景は多く認められるが、養蚕農家の外観や、畳をあげて蚕室として使用中の座敷、家族の協同労働など、養蚕農家の飼育環境や飼育者の生活が数多く記録される一方で、蚕がメインの写真は極めて少ない。写真からは養蚕が住生活や労働形態・景観に与えてきた影響を具体的に確認でき、撮影意図もそこにあったと推測される。養蚕写真も人と生物との関係性の記録ではあるが、家畜写真とは一線を画している。

・生業の変化

生業に関する写真は最も多く撮影されている。撮影時期は、農業の機械化、高度経済成長、農地の宅地化、農業従事者の高齢化、生活改善運動などが進み、農作業とともに生活自体が変化した時期である。また、山梨県内においては養蚕から果樹への転換が進み、景観や民俗も劇的に変化した。

養蚕から果樹への転換を示す特徴的な写真がある。昭和 38 年(1963)に甲府市東部で撮影された写真では、桑畑に葡萄棚が組まれ、間もなく果樹に転換される畑であることがわかる。同様に、白根町(現南アルプス市)の昭和 40 年(1965)の写真として、桑の抜根を記録したものがあつた。桑株の植替えは、養蚕業においても品種転換や樹勢が衰えた場合に行われる。対象の写真も、一見するとその場面を切り取ったものかと思えるが、畑の上部に葡萄棚が造られていることから、桑から葡萄に転換する場面であることがわかるのである。同時期の山梨県峡東地域の写真では、養蚕農家の庭先の葡萄棚が写されている。果樹栽培は病害虫防除の消毒を行うため、昆虫飼育である養蚕業とは両立しない。よって、撮影された養蚕農家では、すでに果樹への転換がなされたことがわかる

水田耕作に関する写真では、「都市の田植え」(昭和 38 年、1963)の写真が興味深い。集合住宅の前の水田における手植えによる田植えが撮影されたもので、撮影地は甲府市南部

あるいは西部の平坦地と思われる。郊外の農地の宅地化が進みつつあったことがわかる。

・祭り・行事

県内各地で行われている祭り・行事を撮影した写真が散見される。三富村(現山梨市三富)風景では、農閑期の村芝居の写真(昭和39年、1964)が大半を占める。写真は、芝居上演時ではなく、仮設舞台の組み立てや舞台裏での準備、舞台上から見た観客、終演後の宴席等、上演者の視点に立ったものが多い。また、甲府市や敷島町(現甲斐市)、六郷町(現市川三郷町)、明野町(現北杜市)における小正月の道祖神祭りの写真では、祭りの日に遊ぶ子たちの様子や、神木が立てられた集落と、そこを歩く村人の様子、団子作りをする女性たち、村回りの獅子舞を迎えた家の人々が記録されている。こちらの場合も、祭りのハレの部分だけが強調されたものではなく、文化財的な捉え方でもない。いずれの例も、芸能や祭りの賑わいを撮影したというよりも、祭り・行事の場における協同性や、日常との連続性、農村生活における生活暦を記録する意図があったと思われる。

・その他

女性を撮影し続けていることも特徴であり、後に写真集『農村婦人の詩』(1995年、山梨日日新聞社出版局発行)として出版されている。背景には、農業従事者における高齢者と女性の割合の増加や、生活改善運動における女性の活躍があると思われる。農村女性政策も踏まえつつ、撮影者が農村生活における女性の重要性に注目していたことがうかがえる。また、生活改善運動による生活変化がわかる写真としては、結婚式が地域と年代を変えて複数撮影されている。農村部では角隠しと引振袖を着用した花嫁の行列、家庭での披露宴が撮影されている一方で、甲府市街では公共施設における会費制の結婚式や、ドレス姿の花嫁の神前結婚式が撮影された。地域による変化の速度の違いがうかがえる。

社会的出来事の例としては、昭和34年(1959)7号台風における武川の氾濫と集落の流失の記録を挙げる。被災者の老婆が砂の上に立ちつくす姿や、流失を免れた家財を干す様子、半壊した家屋の階段に座り込んで何かを読みふける男性、土砂の上に竈を置いて臨時的炊事場を設けた様子、流失した橋の代わりの仮設橋等が記録されている。また、救援に訪れた自衛隊の救援・復旧作業、食事の様子、彼らに対する謝礼の言葉をつづった手書きの貼り紙が撮影された。惨状の記録もさることながら、被災後に日常を取り戻そうとする力強さや、復旧作業自体が被災者の日常になっていく様に主眼が置かれている。

同じ水害記録でも、甲府市朝日町水害(昭和36年、1961)では様子が異なる。朝日町では相川が氾濫し、住宅街に土砂や流木が流れ込んだ。7号台風の写真に比べると、町の惨状や混乱が間近で記録されている。朝日町は撮影者が居住していた美咲町の隣にあたる。被害を免れた撮影者であったが、当時の記憶は強く残っていたとみえ、被害に驚いたことや、いかに酷い状況であったかを語ってくださったことがある。第三者としての記録写真と、当事者に近い立場からの記録では視点の現れ方に違いがみられることがわかる。

・まとめ

以上、対象写真群の撮影傾向と特徴的な撮影内容について述べた。撮影内容を分析することにより、本資料群が激変期の社会を視覚化し、生活の推移を示す資料であることが確認できた。また、昭和30から40年代(1955~1974)頃における生業の変化は確かに大きいですが、その変化の多くは、生活の当事者による日常の創意工夫と意思決定の積み重ねであり、自主的な取捨選択の結果であったことも実感できる。

当事者が気づかないうちに進む変化の過程は、撮影者によって記録され、可視化された。これ自体は写真資料の大きな特徴である。ただし、災害記録の事例のように、風景の切り取り方には撮影者の意図や立場が影響することを忘れてはならない。また、本資料のような記録写真群を基に変化を分析する手法は、聞き書き調査により生活を文字化して記録し、それを基に民俗誌を編纂する作業にも近い。今後は、詳細な分析と考察を継続するとともに、写真を主体とした地域誌を示す作業を進める。特に、養蚕から果樹への切り替えは写真も豊富であることから、まずはこのテーマから取り組みたい。

(3) 写真資料の活用～教材化と今後の課題～

山梨県博の民俗分野は、特に小学校中学年の社会科「昔の暮らし」において、養蚕業の解説と実物資料の観察、あるいは石臼や洗濯板などの生活用具による体験活動などを行い「50～60年前の山梨の生活」に関する学習を提供してきた。この出前授業ではふたつの課題を抱えてきた。ひとつは、児童に養蚕業を具体的にイメージさせることが困難だったこと、もうひとつは生活用具体験の場合で、道具の使用を体験できるものの、それらが使用されていた生活の想像や理解に結びつけるまでには至らないことである。そこで、本研究でデジタル化した写真と分析情報を、出前授業用教材として再編集し、上記の課題解決を試みた。

教材化では、既存の出前授業の内容に合わせ、養蚕関係と、学校の所在する地域に関わる内容、水にまつわる住生活に関わる内容を取り上げた。テーマに沿って選んだ写真によりスライドショーを作成し、それを投影しつつ児童と共に見て、写真から見つけたり想像したりしたことを発表してもらいながら解説も加えるという方法を取った。児童への問いかけや解説において、資料化の際に読み解いた情報を活用した。

養蚕関係写真では、作業写真だけでなく、養蚕農家の構造や使い方、家族や集落単位での労働の様子、桑畑の景観、行事における繭の豊作祈願等の写真を用い、養蚕の全体像や、景観の違い、養蚕と生活文化との関連性の理解に導くことを心掛けた。

地域にまつわる内容では、出前授業の頻度を考慮し、石和町と甲府市分を優先して作成した。石和町では温泉湧出と町の産業との関連が、甲府市では駅周辺の開発と、市街地と郊外での産業の違いが可視化された。今後は、撮影枚数が多い北巨摩地域の教材化を進める。

生活用具体験に関する教材としては、水にまつわる写真を集め、川や井戸での水汲みや、上水道の整備前の台所や風呂場、洗濯の様子など住生活を中心とした写真を用いた。実際の出前授業では、これらの写真を見ながら当時の生活を想像・解説し、その後天秤棒による水運びと洗濯板・盥による洗濯体験を行った。写真からは、子供の手伝いや、共同井戸と情報交換としての「井戸端会議」、共同風呂等、水を通じた社会生活を想像する機会を得た。また、台所での水の貯蔵と利用、風呂、水道整備による家の改築など、住生活変化の具体的な理解に結びついた。

「昔の暮らし」の単元では、ともすれば生活様式や用具の違いによる「大変さ」のみが強調されてしまうが、写真を組み合わせ、人々の様子から暮らしぶりを観察して想像する作業が加わったことにより、資源利用や地域・家庭内の協同性、時間や身体感覚の違い等、より具体的な生活の理解につながった。引き続き、出前授業を実施した学校の教員や児童からの具体的な感想を得つつ、教材の検証作業を行っていきたい。

なお、今回作成した教材は山梨県博職員が持参して展開することを前提に作成したため、現時点では貸出用には対応していない。今後、貸出教材として再編集する際に課題となるのは、写真と分析情報の取捨選択であると考えられる。どの情報を児童に提供し、どのような視点を引き出すかは、当日の児童たちの様子を見て判断することが望ましいが、そのためには教材の使用にあたって指導者が各写真の情報を理解している必要がある。過剰な情報の提供は指導者の負担の増加につながり、かえって活用頻度を下げてしまう懸念がある。この課題については、今後、山梨県博と県内教員有志によるティーチャーズクラブにおいても検討を行いたい。

表1 アルバムテーマ

アルバムテーマ(撮影者記入タイトル)
1 山梨の農村女性
2 村の人
3 畜産・養蚕・農産加工
4 稲・麦
5 農業普及(生活改善)
6 農業普及(青少年クラブ)
7 農業普及(普及所・改良普及員)
8 野菜
9 果樹
10 県内風景・伝統工芸
11 農業災害・林業・農業風景

表2 資料化を実施した写真の市町村別枚数

市町村名	枚数	備考
甲府市	715	撮影者居住地
長坂町	116	撮影者出身地
六郷町	91	
三富村	80	
敷島町	80	
芦川村	73	
高根町	69	
牧丘町	66	
須玉町	64	
道志村	61	
下部町	60	
双葉町	55	
石和町	52	
山梨市	50	
若草町	40	
田富町	39	
三珠町	33	
塩山市	33	
市川大門町	30	
明野町	30	
竜王町	28	
勝沼町	27	
武川村	25	
韭崎市	25	
上九一色村	24	
身延町	19	
増穂町	17	
忍野村	17	
大月市	17	
白州町	16	
都留市	15	
御坂町	14	
甲西町	14	
大和村	12	
白根町	12	
小淵沢町	11	
足和田村	11	
八代町	9	
富士吉田市	9	
河口湖町	9	
大泉村	9	
一宮町	9	
櫛形町	8	
昭和町	7	
鳴沢村	6	
中道町	6	
勝山村	6	
玉穂町	5	
山中湖村	4	
富士豊茂村	4	
早川町	4	
境川村	4	
豊富村	3	
中富町	2	
富沢町	2	
上野原町	2	
八田村	1	
南都町	1	
鯉沢町	1	
芦安村	1	
県外	106	京都、新潟、東京、長野、愛知、静岡、佐賀
場所未確定	1,211	県外、県内含む
計	3,570	

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計0件

〔学会発表〕 計0件

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

研究成果を活用し、山梨県博が県内小学校で行う出前授業「昔のくらし」に使用する教材を作成した。作成した教材を用いた出前授業は、2018年から2019年にかけて実施した。その際、研究の進展にあわせて教材に適宜修正を加えた。

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
--	---------------------------	-----------------------	----